



健康社会学研究会

ニューズレター No.59

発行：健康社会学研究会

事務局：〒504-8511 岐阜県各務原市那加桐野町5丁目68 東海学院大学健康福祉学部 健康社会学研究室（森川）

TEL：058-389-2200(315) FAX：058-389-2205 E-mail：healpro@tokaigakuin-u.ac.jp

ニューズレターNo. 59 / 2010年8月

編集担当：鈴木茜

平成21年度健康社会学研究会総会 開催報告

去る、6月12日(土)に、平成22年度健康社会学研究会総会が開催しました。全ての議案について原案どおり承認されましたのでご報告いたします。総会に出席された皆様、ありがとうございました。

健康社会学研究会 代表 松岡正純

第45回健康社会学セミナー 開催報告

日時：平成22年6月12日(土)13時30分～17時

場所：日本子ども家庭総合研究所3階 第1会議室

Win-Winな関係を通じた地域の健康づくり

イントロダクション 「健康なまちづくりのためのエッセンス」

東洋大学ライフデザイン学部 教授 斉藤恭平

フロアーディスカッション

話題提供者

三郷市市民生活部健康推進課健康づくり係

係長

守屋希伊子

飯能市福祉部健康づくり推進室

主任

遠藤延人

財団法人日本ウエルネス協会

主席研究員

杉浦裕二

コーディネーター

東洋大学ライフデザイン学部

教授

斉藤恭平

去る、6月12日、日本子ども家庭総合研究所(麻布)にて、「Win-Winな関係を通じた地域の健康づくり!」というテーマで、第45回健康社会学セミナーを開催しました。

まずセミナー前半に、私(東洋大学 斉藤恭平)より「健康なまちづくりのエッセンス」と題した話題提供をさせていただきました。地域の保健活動を取り巻く、社会的背

景や健康問題の変化を取り上げ、その変化に伴う保健活動のパラダイムシフトの必要性を主張いたしました。また保健活動のパラダイムシフトを軸として、健康なまちを創り上げるためのヒントをヘルスプロモーションの概念を中心に「住民参加」「協働」「共有」「シビックプライド」をキーワードに話題提供をいたしました。



話題提供の後、セミナーの後半は私がファシリテーターを担当し、3名の発表者とフロアの参加者による熱のこもったディスカッションが繰り広げられました。まず飯能市健康づくり推進室の遠藤氏からは、健康づくり推進室を中心とした活動の紹介や飯能市健康体力づくり市民会議の運営方法等の紹介がされ、とくにウォーキングに関する市民や関係団体を巻き込んだ積極的な取り組みや、市長自らの「ウォーキング人口3万人宣言」など官民が連携した活動が紹介されました。

次に三郷市保健師の守屋氏からは三郷市の健康づくりの取り組みや、とくにウォーキングのためのハードとしてのICウォークを導入した健康づくりの取り組みが紹介されました。また市内の公園設備（スカイパーク）の有効活用のためのソフトとして、今後予定する市民や商工関係者、大学との協働事業が紹介されました。

最後にウエルネス協会の杉浦氏からは、神戸六甲地区の集落の茅葺き屋根の保存をテーマにした高齢者対象のコミュニティービジネスが紹介され、高齢者の健康づくりと河川の萱の伐採、そして茅葺き屋根の保存をリンクさせ、ビジネスモデルにしたケースが紹介されました。まさしく Win-Win の関係の具体例を実感できる発表であったと思われます。

時間が少なく参加者の皆さんから十分な意見が引き出せなく、我ながらファシリテーターの能力のなさを感じてしまいましたが、それに反して参加の皆さんの評価は良かったようで、住民参加や協働の新たな視点を持っていただける大きなきっかけになったものと確信いたしております。（斉藤恭平）

7月 月例会開催報告

日時：平成 22 年 2 月 27 日（土）15：00～17：00

場所：日本子ども家庭総合研究所 3 階 第 1 会議室

テーマ：修士論文報告会

「自治基本条例制定過程における「市民参加」に関する一考察」

報告者：松岡正純（白井市役所）

「青少年の安全なインターネット利用に関連する要因」

報告者：渡辺多恵子（筑波大学大学院）

「母子の生活する地域特性と母親の保健行動との関連」

報告者：鈴木茜（市原市役所）

今回の発表は、明治大学大学院ガバナンス研究科にて作成したリサーチペーパーを題材にしたものです。これからの健康なまちづくりは、市民参加による自治体運営を計画・実施・評価の全ての場面において進めていくことが重要です。特に政策形成過程における市民参加は、自治体の未来像や具体的取り組み（仕組み）をつくり上げるために、特に重要視されるべきポイントであると考えます。

本研究では、自治体の憲法とも言われる「自治基本条例」の制定過程をとりあげ、条例制定過程の市民参加の現状と課題をまとめ、今後のあり方を提案しました。

実態を調べてみると「市民参加」という手法は、各自治体に定着してきている感がありますが、「行政主体の市民参加」と「市民主体の市民参加」とでは、条例制定過程に大きな違いが有ることが明らかになりました。

これからは、形式に陥りやすい「行政主体の市民参加」ではなく、合意形成を重視する「市民主体の市民参加」を積極的に取り組んでいくことが求められます。そのためには、ワークショップの活用、ファシリテーターの役割、会議ルールの設定、市民と行政とのパートナーシップ協定の締結等を行うことで合意形成の基盤をつくり、条例制定に関わるメンバー間で「思い」、「時間」、「情報」を共有しつつ、多くの市民を巻き込むPK(パブリックインボルブメント)活動を継続的に展開していく過程が重要であると提案しました。(松岡正純)



修士論文に関しては、論文発表会や研究室のカンファレンスで、何度も発表し、多くの意見をもらってきたテーマです。しかし、今回の月例会で発表させていただいたことで、これまでにはなかった視点や考え方からの意見やアドバイスをいただくことができました。頂いたアドバイスをもとに、論文を修正し、学会誌に投稿したいと思います。このような発表の場を頂けたことに心から感謝しています。(渡辺多恵子)

順天堂大学大学院に医療看護学研究科が開設され、日頃の悩みや感じる疑問を少しでも解決できる能力を身につけたい一心で、2回生となり学ばせていただきました。

今回の研究目的は、ソーシャルキャピタルに着目した地域特性と母親の保健行動に関連を明らかにし、今後の保健活動に活かすことでした。ソーシャルキャピタルに関する我が国の研究は、母子保健分野での研究は成人保健分野に比べ少なく、子育て期女性に着目した研究はあまり見受けられない状況です。本結果は、信頼や規範等の項目と生活習慣の項目等との関連がみられ、これらを母子保健活動におけるアセスメント項目として活用できるのではないかと感じています。しかし、調査項目の信頼性と妥当性等さらなる検討が必要と思われ。今後も調査継続が必要です。研究会での発表では、研究の視点の見直しや分析方法の再検討の必要性を学ばせて頂きました。よりよい研究となるようアドバイスを頂き心より感謝しています。(鈴木茜)

9 月月例会のご案内

テーマ：学会発表リハーサル

日時：平成 22 年 9 月 25 日（土） 15 時 00 分から 17 時 00 分

場所：日本子ども家庭総合研究所 3 階 第 1 会議室

発表者：高澤みどり（市原市役所）、渡辺多恵子（筑波大学大学院）、
鈴木茜（市原市役所） 他

エントリー希望の方は、事務局までお知らせください(9 月 22 日迄)。

第 69 回日本公衆衛生学会（東京）自由集会のご案内

集会名：Win-Win な関係を通じた地域の健康づくり

日時：平成 22 年 10 月 28 日（木） 18 時 30 分から 20 時 30 分

場所：東京国際フォーラム D502（予定）

参加費：無料

発表者：未定

「Win-Win な関係」とは、相手や自分の考えに限定されないより良い方法を模索する関係です。相手だけ、自分だけではなく、互いにとって益となることを志向します。

今回は、ポピュレーションアプローチを中心とした地域の健康づくりに取り組んでいる自治体からの報告をいただき、意見交換を行います。まちづくりに関わるすべての人が幸せになるという考え方を基本に、事例からヒントを得、活動に対する意見をいただき、紹介された自治体の活動をバージョンアップさせるような時間を持てればと考えています。

参加者の多様な目線から、ヘルスプロモーション活動を創造できるような機会にしていきたいと思います。

多くの方々の参加をお待ちしております。自由集会終了後 21 時ごろより会場周辺で懇親会を開催しますので、こちら是非ご参加ください。

事務局からのお知らせ

平成 22 年度会費納入のお願い

会費納入がお済でない方は、払込票、もしくは銀行振込にてお願いいたします。

会費納入先

◇ 郵便振替：00100 - 8 - 41025

◇ 銀行口座：

みずほ銀行広尾支店 普通 1842122 健康社会学研究会 代表 松岡正純
十六銀行日野支店 普通 1238746 健康社会学研究会 代表 松岡正純
ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900） 当座 〇一九店（ゼロイチキュー店：
店番 019） 0041025 ケンコウシャカイガクケンキュウカイ